

先日より「KOZOOM」会ではいろいろありましたが、反響が皆さまの投稿で益々先行きが期待できるように思います。

この件について額田氏に報告しようと思ひ昨日より電話を入れておりましたか、今日連絡がとれZOOMについての説明をし、昨日HPに掲載頂いた内容を写真も含めプリントアウトしてお届けするようにしますと、お伝えしておきました。

一昨日額田氏より届いていました近況、心境を記された手紙を頂いておりました内容を五期ホームページに掲載することを了解していただきましたので、添付でお届けします。宜しくお願ひします。(文後のスケッチは自筆です)

山本 健太郎

額田晃作様から山本健太郎氏への手紙

昨日、腕時計の電池が切れて、明日には同種の九百八十円ですがキツチリ時間の合うのが送られてきます。コロナで家族とは二ヵ月以上会っていない有様ですが、受付での洗濯等の交換でなんとか籠城をしのいでおります。

別に拘置所に入れられたわけではないのですが、いや、それ以上にガツクリの状態をナニクソで過ごしています。

昨年の夏のご挨拶では私の病気のことばかりで、今年は「二十世紀を代表する女優は」を書く楽しんでいただけるかもと、書き出すと

膨大なあれもこれもが脳から沸き出し收拾がつかず。やはりこのシンドサを横目でさらりと見て彼等はどのサマでこれからを生きるかと興味をもっていたたたくのも一興と私めを晒すことをお許しく下さい。

二月四日朝、いつものように診療して間もなく、私の手からピンセットが落ちました。脳幹に梗塞あり。高校からの友人早川君が名誉院長を務める関西労災病院で急性期を乗り越えさせていただき、二十七日からここ森ノ宮病院でリハビリテーション生活を送っています。病院理事長の大道先生ご一家とは四十年前から懇意にさせていただき、まさか私がお世話になるとは。あの時もらったアイアンはずっと使っています。

入院して何日とは何ヵ月と数えるのは気が滅入るので、毎日のリハビリを懸命に自主連はGIVE ME CHANGEでヤツタルデと頑張り、やりすぎて痛めてしまったことも。

コロナ騒ぎでこの病院も封鎖され幸い罹患者なし。看護師さんは患者の様子を観察し(食事、トイレ等の世話をを行い)情報を共有して療法師も当然参考にしてその伝達の早さに驚かされます。

患者に対しては病室へ患者の車椅子を迎えに、杖の場合は付き添いにきて、リハビリ室へ。誠心誠意。病室へ送ってくると「ありがとうございます」とか「またお願いします」と言う。何かおかしいとは思いますが。看護師さんも「夜勤の〇〇です」「交代します」と病室の前に並んで挨拶されるとやはりナンデヤと長い入院生活ですが感狂うのであります。

幅広い歩行練習に充分使える手摺のある廊下、ナースステーションはオープンで、コンピューターがずらり。白い石張りで囲まれている。院内に妙な絵が一枚もないのがよい。特筆すべきは三度の給食は味覚不問のこと。トイレのウォシユレットは優品でピーンと音がなるほど強力であります。設備面とスタッフのマナーはボバース理論を一早く我が国に導入された大道先生父子の見識のなせる業と思えます。

リハビリ以外はBSの旅行ドキュメントを私はもう行けないを辛抱して見えています。南米のビルナバンバは長寿村で二十歳の息子が親と一緒に写っていて「父が九十歳の時生まれた彼はドンファンな

んだ」。これは喜劇か悲劇か日本では？

サンティアゴ巡礼千五百キロは一時やってみたい思いがあったのですが、ピレーネを越えサンティアゴに到達して達成するわけですが、私の後の人生は今までにない制約を背負ってゴールなく歩まねばなりません。運・不運はあるものの病気と向き合った自分を生かす方向へ進路を取り、謙虚に生きていたいと思っています。

令和二年七月 額田晃作

